

LipoTEST Case Report vol.3

2009年4月

Case3: 甲状腺機能低下症と高LDL血症を示し 前肢端が壊死脱落したと思われる犬

【Profile】

- ・動物種: 犬
- ・品種: シェットランドシープドック
- ・性別: 雌
- ・年齢: 12歳
- ・体重: -
- ・B.C.S=4/5(体重過剰)

■病歴:

2ヶ月前に前肢にナックリングが生じ、他院にて治療後良好であったが前肢の先端が壊死してきたとして来院。

【検査】

■院内検査

○身体検査

- ・両前肢端のミイラ化、右後肢外側に潰瘍。

○血液検査

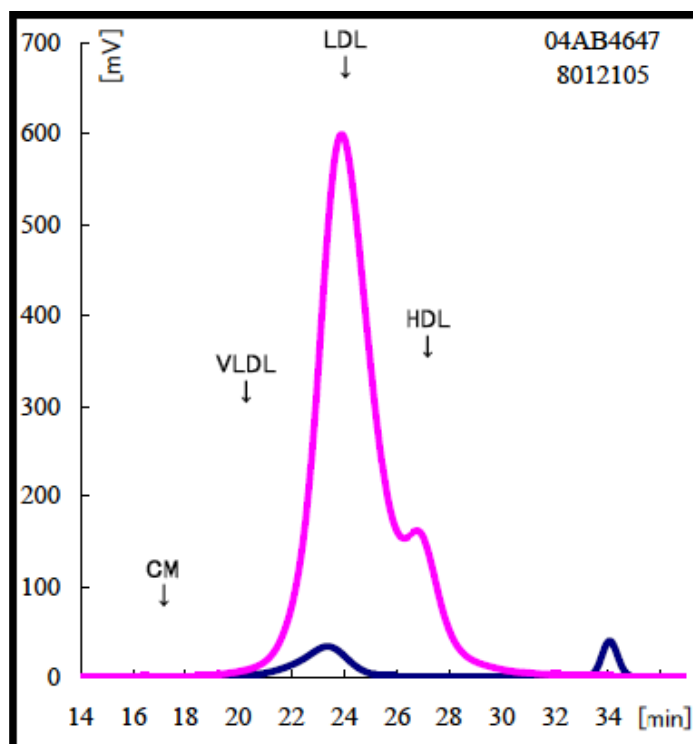
- ・WBCの上昇(40500/ul)、貧血(HCT20.0%)
- ・肝酵素の上昇(ALP>40000 IU/L)
- ・脂質の異常な高値(T-Cho = 589 mg/dl)

○甲状腺機能検査

- ・T4(<0.47 μ g/dl)、fT4(<0.08ng/dl)低下
- ・C-TSHの上昇(1.25ng/ml)

■LipoTEST検査所見(1回目)

- 分類: パターン1・LDL増加型
- 特にLDL-Choの著しい高値を示した。



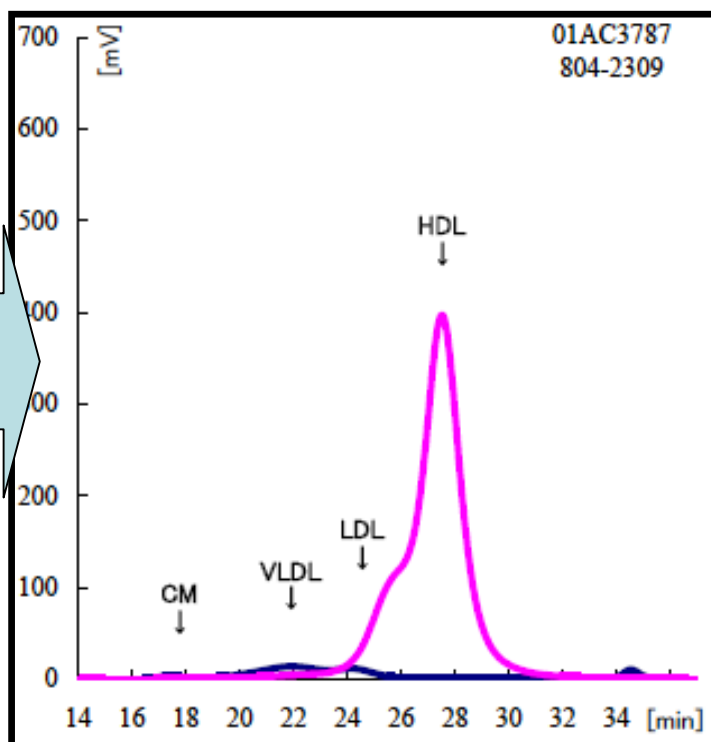
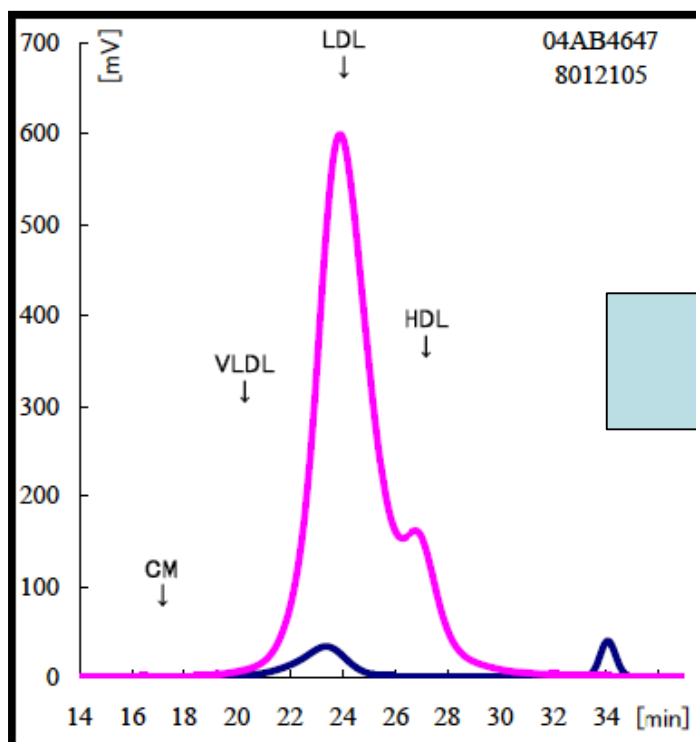
【治療計画】

- ・ LipoTESTの結果から高脂血症、甲状腺機能検査から甲状腺機能低下症が示唆された。
- ・ 壊死部については抗生剤と毎日の洗浄、甲状腺機能低下症にはレボチロキシナトリウム(11 μ g/kg/BID)を投薬した。
- ・ 高脂血症についてはフラバスタチンナトリウム(1mg/kg/SID)を第15病日より投薬した。
- ・ 経過観察後、第96病日に再検査を行った。 ⇒ 裏面に続く

【LipoTEST 波形データの変化】

～ 1回目結果 ～ 第1病日

～ 2回目結果 ～ 第96病日



【解析結果に基づく治療への評価】

- ・ 脂質代謝改善薬の投与によってLDLコレステロールは正常範囲内まで減少し、肝酵素ALPも681 IU/Lまで改善した。
- ・ 今回の症例で壊死脱落の原因と思われる粥状動脈硬化や閉塞性動脈硬化の確定診断をすることはできなかったが、甲状腺機能低下の治療、高LDL血症の治療を行うことで著しい改善が見られた。

症例提供：江口動物病院 江口邦昭先生（佐賀県）

◆LipoTESTに関するお問合せ先 スペクトラム ラボ ジャパン 株式会社

* 検体送付キットの請求は、下記記入のうえ、FAX (03-5731-3631)にてご返送下さい。

病院名		氏名	
住所		TEL	

詳しい情報に関しては、LipoTEST Webをご覧ください。URL: <http://www.lipotest.jp/>